

佐賀県研究成果情報

施設ナシの樹勢低下樹におけるフタモンマダラメイガの寄生確認と発生実態					
[要約] 県内の施設ナシ園において、樹勢低下が問題となっていた樹には粗皮間に虫糞の排出が多数見られ、粗皮下からはフタモンマダラメイガの幼虫の寄生が確認された。露地栽培園でも寄生はみられるが、施設栽培園での寄生が多い。					
果樹試験場・病害虫研究担当				連絡先	0952-73-2275
部会名	果 樹	専 門	作物虫害	対 象	ナ シ

[背景・ねらい]

2004年10月頃、県内のナシ園の樹勢が低下している樹では主枝や垂主枝の粗皮間に虫糞の排出が多数確認され、粗皮下には鱗翅目幼虫が寄生していた。このことから本虫が樹勢低下に関係しているのではないかと考え、種の同定を行い今後の防除対策の資料とする。

[成果の内容・特徴]

- 1) 県内の施設ナシ園で樹勢が低下している樹の主枝や垂主枝の粗皮間には虫糞が多数確認される(図1)。
- 2) 虫糞が排出されている部分の粗皮下には、フタモンマダラメイガ *Euzophera batangensis* の幼虫が寄生しており、粗皮下部や木質部の表面を食害している(図2, 3)。本虫はカキの害虫であるが、本県での発生は少ない。
- 3) 本種の形態は成虫が開長約15mm、暗紫褐色、前翅に灰褐色の波状の横帯が2本ある。幼虫は老齢幼虫で約13mm前後、頭部は茶褐色、体は淡褐色、白色楕円形の繭を作り蛹化する(図2, 4)。
- 4) 本幼虫の幼木への寄生は見られず、成木に寄生している(表1)。
- 5) 形成層まで達するような過度の粗皮削りを行った結果、粗皮の発達が不十分な樹で寄生が多い。

[成果の活用面・留意点]

- 1) 本虫に対する登録薬剤はないので、虫糞が排出されている部位の粗皮下に生息している幼虫・蛹を捕殺する。
- 2) 過度の粗皮削りは、本虫の再寄生を助長する傾向にあるので行わない。

[ 具体的なデータ ]



図1 主幹部位での虫糞の排出状況

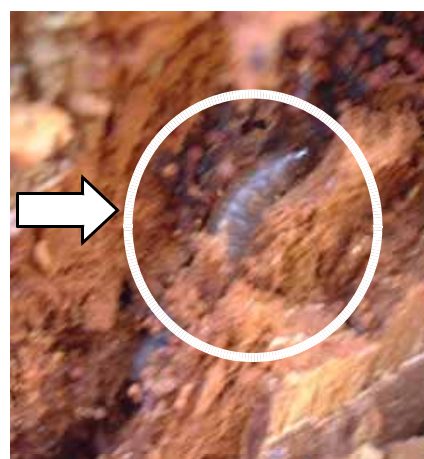


図2 粗皮下で木質部を食害している幼虫

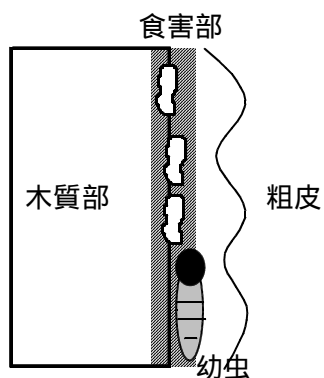


図3 幼虫の粗皮下での食害部位



図4 フタモンマダラメイガの蛹(左)と成虫(右)

表1 成木と幼木でのフタモンマダラメイガの寄生状況の違い

	虫糞の排出		寄生樹率 (%)
	有り	無し	
成木	22樹	29樹	43.1
幼木	0樹	39樹	0.0

幼木：3年生

成木：10年生以上

[ その他 ]

研究課題名：果樹病虫害発生予察事業

予算区分：県単

研究期間：2005年～2007年

研究担当者：近藤知弥・井手洋一・田代暢哉

発表論文等：平成17年度 九州農業研究発表会(口頭発表)